

大学トピックス

素晴らしい業績を残した我が大学の卒業生

吉川純一先生を偲ぶ

宮本 武 医学部(市大)・教員

私は大阪市立大学医学部、市大医基礎大学院卒、放射線科助手、その後、神戸市立中央市民病院放射線科へ赴任、部長として長く勤務。

同じ市大医学部卒業生で神戸市立中央市民病院循環器内科部長をしていた私の 2 年後輩の吉川純一先生が担当の心エコー室の医員達がいつも忙しそうにしているの、どうしたのかと聞くと、吉川部長が米国の心臓病学会から招請を受けていて、彼らが開発した心臓エコー学を紹介する特別講演を依頼されていて、みんなでそのスライド作りをしているんだと聞き、驚愕。

心臓超音波(エコー)検査は心臓を輪切りにして、心臓の形、大きさ、壁の厚さ、動く様子をリアルタイムで、しかも、心臓内を流れる血液に色を付けて表示し、弁の逆流(閉鎖不全)、狭窄、心臓の血液を送り出す力を調べ、心機能に異常がないかも簡単に調べられる検査で、循環器内科で大変一般的な検査になっているが、この学問を1980年代後半、一から作り上げたのが吉川純一先生です。

彼は循環器内科医師向けの専門書も十数冊執筆しており、【心臓病 狭心症、心筋梗塞の生活と食事】などの一般向けの本も多数執筆。

彼は神戸市立中央市民病院後、大阪市大医学部第一内科教授、大阪市大病院院長歴任、その間、日本心エコー図研究会(後の心エコー学会)初代理事長、日本心臓病学会理事長にも就任。心エコー学の領域で国際的なリーダーでした。彼は2016年6月75歳の若さで大変惜しまれながら逝去されました。

吉川純一先生の著書 (他多数あり)

臨床心エコー図学 / 吉川純一編 第3版
文光堂 2008.3 ISBN:9784830616976

最新第3版では、読者の理解が容易なように「方法編」と「疾患編」に分けて記載。基本から最新知見まで心エコー図学を完全網羅。



大阪公立大学と飯田グループ

大阪・関西万博に共同出展館

～ 持続可能な住まいや暮らし、社会を創造、 未来型住宅を実現 ～

大阪公立大学と飯田グループホールディングス(以下、飯田 GHD)は、長年の共同研究の成果を2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)で披露する。

産学共同で出展するパビリオンは、日本初。メビウスの輪を模した楕円形の巨大な建造物を艶やかに覆う斬新な外観は、圧倒的な存在感を誇る。さらに、そのパビリオンは、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にふさわしく、地球環境に配慮しつつ快適で健康に暮らせる住宅を追求する飯田 GHD と大阪公立大学人工光合成センター(杉本キャンパス)及び健康科学イノベーションセンター(中百舌鳥キャンパス)が共同研究を行ってきた成果として、それぞれ「人工光合成技術を搭載した IG パーフェクトエコハウス」と「ウエルネス・スマートハウス」として発表する予定だ。

人工光合成技術は、二酸化炭素と水から、デンプンやブドウ糖をつくり酸素も発生させるなど、再生エネルギー製造に大いに期待される。

一方、1200年以上続く西陣織の素晴らしい技術を特に生地をパビリオンの外装に抜擢し、デザインとともに強靭さを確保させる面が注目される。

館内では、健康寿命延伸につながる未来の健康住宅を体感できる楽しみも企画されている。



この建物は(設計は高松伸、施工は清水建設、西陣織は細尾、膜材の技術を持つ太陽工業の4社で世界初の西陣織建築に着手した)赤を基調とする花柄の西陣織がパビリオン表面の膜材となり、大きく波打つような3次元曲面の構造体を覆い尽くす。階数は地下1階地上2階建てで、高さ約12m、西